

日本と中国の女性の比較

Comparison of Japanese and Chinese females

ジャン・ル Lu Zhang

82272 - Intermediate Japanese

この文化比較プロジェクトでは日本と中国の女性について書こうと思う。性別の差異は、世界中色々遺伝的な差異と同じで、人類の始まりから存在した。男性と女性は生まれつき生理的な違いがあって、それぞれ違う社会的な役割を持っていて、時代の変化につれてそれらの役割も変わっていったことは、とても面白いと思う。そして、自分の出身は中国で、今日本語を勉強しているから、このトピックについてこの二つ国の類似点と相違点に興味ある。また、中国と日本は両方とも歴史的に昔は封建社会だったが、時代が変わった後、中国は今日本ほど男尊女卑の慣習をあまり守っていないそうだから、その理由も述べようと思う。

歴史的に日本の女性の身分は男性より低くて、職場で女性は男性より給料が少なく、昇進の機会も少ないそう。今女性と男性の社会的地位の差異が小さくなってきていて、近年日本では働く女性も増加しているけど、女性が仕事と家庭を両立するのはまだまだ難しいそう。二十五才ぐらいになると結婚して仕事をやめたり、子どもができたら仕事をやめる女性もいるそう。また、家事や子育て、介護をしながら柔軟な働き方をするために、起業する女性もいる。最後

に、日本の女性にとって、夫には夫の生活があり、妻には妻の生活があり、夫婦がいっしょに楽しむのは日曜日ぐらいだそう。

中国は、日本と同じく儒教思想に影響されたので、歴史的に「女子と小人は養い難し」という言葉もあって、女性は封建社会では不平等な扱いをされた。しかし改革につれて、今中国の男女平等の状況は日本より良くなっていると思う。働く女性が増加しているだけではなく、中国では仕事と家庭を両立できる女性も多い。確かに子どもができたなら暫く仕事をやめる女性がたくさんいるが、結婚した後仕事をやめる女性が少ない。それで、近年中国でも起業する女性が増えているけど、別に家事や子育て、介護をしながら柔軟な働き方をするためではない。けれど概して言えば、中国の職場では女性はまだ男性より給料が少なく、昇進の機会も少ないそう。最後に、中国では、夫婦がいっしょに楽しむのは普通で、各自それぞれの生活を経営する夫婦もあり、それぞれの家庭によって違う。

私の意見では、家庭と婚姻についての価値観がそれぞれの国の男女平等の実現に影響している。第二次世界大戦で負けたおかげで、日本の社会はアメリカ人に改革をされ、戦後になって女性はやっと大学に行くことができるようになり、参政権ももらったそう。しかしその改革は所詮受動的で、日本自身は何もしていないうちに民主的な国になってしまったのだ。改革をされたことは幸運というのは、自分は最初にそういうつもりがなかったという意味かも。また、日本人は伝統な文化と価値観をちゃんと守っている民族だと言って、社会の秩序を守れ

るように古いやり方に従って、女性は家庭を最優するべきであると考えたのかも
しれない。それに対して、中国はあまり秩序を守らないから、大胆に改革をして
女性を解放させたのは、能動的だったと推測する。男性は強力で女性を支配し、
女性は弱さを見せて男性に頼むのはアジアの国の常態だ。「Shall We ダンス」
の映画の中で印象的なことの一つは、女性として舞先生の積極性と男性として杉
山さんの躊躇の対比である。二つ目は、結婚の目的は一体何なんだろうという
質問だ。たくさんの日本人男性にとって、多分愛情や奥さんとラブラブな生活
を求めるために結婚するのではなくて、家庭をなし子孫を産むことが彼らの婚姻の
本質だから結婚した後は妻から離れるのではないかと思う。だから映画の中で
は、杉山さんの退屈な婚姻生活の中にいきなり美しい舞先生が現れた時に、彼は
情熱的なダンスがその退屈な生活を変えられると願ったようだ。最後に、この1
996年の映画が伝えた一番印象的なメッセージは、あの時の人は、日本人も中
国人も、実に時代の変化や欲望も解放することや男性と女性が同等でダンスをす
ることとかを恐れていて、その変化を受けるかどうかたどり着いて、最初にダン
ス教室の外にいて躊躇っていた杉山さんと同じだ。